

『山口百恵・潮騒の舞台』 エクスカーション＝三重鳥羽市

【PJニュース 10月03日】－ 三重県鳥羽観光協会主催で29日に始まった4日間の「潮騒フェスティバル」の最終日、チャーター船に乗り込んで取材を試みた。2日、鳥羽市では三島由紀夫原作「潮騒」の舞台となった神島の主人公・新治と初江の初恋・純愛から、結婚30年の夫婦を祝う真珠婚までにこだわり、純愛ルネッサンスをテーマに「愛と美の鳥羽」をアピールする試みの船旅が開催されたのだ。

伊勢湾に浮かぶ夢とロマンの孤島『神島』において認定式が行われた。「恋人の聖地」と銘打って、銘板の除幕式に加えて、他に多くの行事が行われた。主役の山口百恵さんの映画監督・荻原賢治さんの記念講演、ロケ現場のウォーキングなど…。

この日、荻原賢治監督が20年前を振り返りこんな事を言っていた。「この島を選ぶ前に、他に生活感のある周辺の島々を探した。その結果この島で山口百恵さんを撮ろうと決めた。20年前の事になるが、その頃は松ノ木が一面に繁っていて、昼間でも暗い感じがした。（松食い虫）にやられたらしいが何故か寂しい…感じがする」。

この名作を育んだ人、町、自然が、この地に今もなお息づいていることを実感して欲しくなりました。いたわりの山々、静かな海に囲まれている「神島」を訪れて、帰りの船中で、一日を満喫した人々の笑顔がとても良かった。

今回行った「愛と美の鳥羽・潮騒」フェスティバルは、5本の映画化を通して描かれている「心の中の純愛」を見直すきっかけにさせていただきたく思います。鳥羽市も今年、伊勢志摩国立60周年を迎えました。折りしも、平成25年に行われる式年遷宮行事も昨年からは始まり、伊勢神宮に抱かれたこの地を是非訪れてください。【了】

■関連情報

お問い合わせ：

鳥羽市観光協会（〒517-0022 三重県鳥羽市大明東1-7）

電話：0599-25-3019



10月2日『恋人の聖地』の除幕式の前で。「戸田家」社長・寺田直喜さん（左）、荻原賢治監督（中）、「国際ホテル」支配人・服部和人さん（右）
（撮影：長戸総）